

生駒市商工観光ビジョン懇話会 第2回工業分科会 議事要旨

日時	平成28年12月13日(火) 10:00~12:00
場所	生駒市役所
出席者	参加者 中村(部会長)、大原、西岡、久保(左)、久保(浩)、林、久内 欠席 唐金 生駒市役所 岡田、知浦、水澤、原田 アルパック 高田、石井 敬称略
議事	1 報告事項 (1)ヒアリングの結果概要について (2)第1回分科会の議事録について 2 意見交換 (1)懇話会からの提案のまとめイメージについて (2)懇話会の施策にかかる意見・提案について 3 その他

【議事要旨】

1 報告事項

- (1)ヒアリングの結果概要について
(2)第1回分科会の議事録について

部会長 : これまでの説明で何か質問はないか。

参加者 : 工業アンケートについて回収数が54件というのは結果としてどうなのか。

事務局 : 全事業所配布に対する回収結果であり、前向きな事業所が回答してくれている結果であると捉えれば良いと思う。

参加者 : ヒアリングの時間は1箇所あたりどのくらいの時間をかけたのか。

事務局 : 概ね1時間である。

参加者 : ヒアリングで面白かった意見は何か。

事務局 : 「情報収集」と「人材確保」の2つが課題として共通していた。また、奈良先端大に関心はあるがどのようにつながっていったらよいかわからないという意見もあった。

参加者 : 「人材確保」は生駒市特有の課題なのか。他市ではどうなのか。

事務局 : 最近でも他市の製造業で「人材確保が困難」という意見はよく聞かれる。しかし、生駒市は大阪府に隣接しているという地理的特性から大阪方面に働きに出てしまうという特徴はあると思う。また、生駒市はこれまで住宅都市というイメージが強いために、企業があることを市民に知られていないということも影響していると思う。

参加者 : 交通が不便という意見は聞くが、昔に比べてかなり利便性も高まっており、それだけとは思わない。

参加者 : 市内北部に工場が集積しているということが知られていないということも大きいと思う。

参加者 : 確かに生駒市内に企業があるということが知られていないという部分

もある。また、道路などインフラもそれなりの整備が必要ではないかと思う。

2 意見交換

(1)懇話会からの提案のまとめイメージについて

(2)懇話会の施策にかかる意見・提案について

【資料4】

部会長 : 資料4の内容について、各自の考えなど意見を出してほしい。特に「工業」と「横断的分野」についてお願いしたい。

参加者 : 企業誘致においては、規制緩和など、金銭面だけではないサポートが重要である。例えば、立地にあたっては時間があまりかからないなど民間が動きやすい環境をつくるのが行政としてできることだと思う。

部会長 : それはP2「②企業誘致の推進」の「イ) 企業立地優遇制度の充実」の箇所の補強内容ですね。

参加者 : 民間が動きやすい環境整備については、誘致はもちろん、いろいろな場面で言えることだと思う。

参加者 : 企業誘致は積極的に進めてほしい。企業数が増えればそれに伴って飲食店なども増えるので。

: 創業しやすい環境づくりが必要である。どこでどのような相談をできるのか情報発信をしていくこと。これも事業者のメンバーを増やすために大事な取り組みである。

部会長 : それはP7「①創業支援」の「ア) 創業相談窓口・体制の強化」の箇所の補強内容ですね。

参加者 : この資料は悪くないと思うが、特にこれで抜けている内容はないか。

事務局 : 内容の大小はあるが、できるだけこれまでの意見を盛り込んでいるつもりである。

参加者 : 農家へのヒアリングはやめたのか。

事務局 : 農業ビジョン推進懇話会において今後の施策について別途検討中なので、そちらの進捗状況に合わせて、ヒアリングは実施していない。

参加者 : 産業教育については児童・生徒だけとなっている。今働いている人のレベルアップなどはどこに入ってくるのか。

事務局 : P2「①-3 人材確保・育成の支援」の箇所で書かれている内容が「確保」ばかりになっているので「育成」についても書き加えたい。

参加者 : 今回の「売り」は何なのかということを用意しないのか。

事務局 : 目玉は出したいと思っている。その表現方法については順番で強弱を付けるなど考えられるので、今後のビジョン作成の中で検討していきたい。

参加者 : 個人的には「ブランド戦略」がほしいと思う。住みやすさのイメージをもっと出して、「職住近接」を売りにできるのではないかと思う。

参加者 : 懇話会からの提案なので、あれもこれも入れたら良いと思う。市のビ

ジョンにはメッセージ性があった方がいいので、そもそもどのようなところを目指すのかという記述があった方がよい。

部会長 : 資料3のまとめイメージでいえば、「1 生駒市の商工観光振興のあり方」にあたる部分ですね。

参加者 : 工場誘致の際に、行政がレンタル工場を作って入居してもらい、その後、市内に定着してもらおうというやり方がある。商業でも学園前駅の構内で週替わりの店が入居するような取り組みがあるが、生駒でもそのようなことができたなら良いのではないか。

参加者 : 生駒のブランドは、「“学研都市・生駒”を作っていく、未来に向かって進んでいく」というイメージを出していきたい。

: 高山サイエンスプラザのレンタルオフィスに空室が多いことに対して、奈良先端大支援財団は、現在何か手を打っているのか。

: レンタルオフィスこそ、駅から降りてすぐのところにある方が良いのではないか。

部会長 : けいはんなプラザのインキュベーション施設の方に入居したがっている企業が多い状況である。

参加者 : 支援財団と奈良先端大は、12室あるうちの9室が空いている状態を解消するためにもっとPRはしていないのか。

参加者 : P1「①-1 操業・イノベーション環境の向上」の「ウ) 事業活動を支える都市基盤の整備」においても、公共交通の充実を入れてはどうか。バス路線は、祝園駅～学研奈良登美ヶ丘駅間の本数は増えている。

: 生駒ブランドを出していったときに、奈良県ブランドとうまく位置づけられたら良いと思う。

参加者 : 奈良県の場合は、柿や牛など農産物からブランド化を進めている。工業製品についても靴下などで取り組みをはじめたところ。観光についてもブランディングが大切。良いものを出し、悪いものは出さないということを「継続」することが必要。

参加者 : まずは「生駒」の名前を知ってもらうことが大事ではないか。

参加者 : 「生駒」や「奈良」という地名は、残念ながら海外にはまだ十分に知られていないのが現状である。

参加者 : 生駒は東京からの距離が遠い。ビジネスでも学術でも東京からの距離で地域が評価されてしまう面が強い。生駒市の立場にとっては、リニア新幹線は是非来てほしいので、提案の中にも入れてほしい。もし、リニアが誘致できたら、品川のようになるのではないか。

【資料3】

参加者 : 今後のスケジュールはどうなるのか。

事務局 : 1月に懇話会、それを踏まえて2月～3月にかけてビジョン素案の検討、来年度の初めにパブリックコメント、夏までに印刷の予定である。

参加者 : 「5. ビジョン実現のための考え方」はどのように書くのか一番難しいところではないか。

参加者 : ビジョンとして何をやるかというのを進捗管理することは大事である。

事務局 : あくまでもビジョンであるので「方向性」「指針」を示すものであると考えている。例えばK P Iは、目玉の施策だけに設定するという事などを考えていきたい。

参加者 : 自分で目標を決めたら、そんなに厳しい目標は記載しないということになってしまうのではないか。最後の判断はお任せするが、参加者として名を連ねるからには、最後のところまで見たいと思う。建設的な意見をするので懇話会を上手に使ってもらえれば良いと思う。

事務局 : ビジョンのフィードバックは、今後参加者の皆さんにもさせてほしいと考えている。

部会長 : 「5. ビジョン実現のための考え方」の「(2) 検証・改善の仕組み」においても「懇話会等の継続発展」と記載されているので、そこで議論できれば良いと思う。

3. その他

事務局 : 次回は平成29年1月17日(火) 13時から全体会を予定。

4 閉会